OPAC時代における薄暮文献の取扱い

飯 島 正 裕*

獨協医科大学図書館

Iijima M. (Dokkyo University School of Medicine Library, 880 Kitakobayashi, Mibu, Tochigi 321-02, Japan) : Management of the Twilight Literature in the OPAC's Age. *Igaku Toshokan* 1993 ; 40 (4) : 393-399.

There are some serial publications which are difficult to locate as books or serials, such as monographic series, advances, progresses, proceedings, yearbooks and so on. This paper refers to these serial publications as the "Twilight Literature." Locating them as serials, however, is a simple and practical way of managing the twilight literature, because they have more of the characteristics of serials than books. A reference screen enabling users to access them on the OPAC at Dokkyo University School of Medicine Library is presented.

I. はじめに

図書館所蔵資料のデータベースを構築するうえで、単行書ファイルに入力するか、雑誌ファイルに入力するか、境界領域の定かでない出版物の取扱いは、図書館員を悩ます問題の一つである。

もちろんこの問題については、機械化以前から「医学図書館」誌上でも多くの図書館員によって、問題提起がなされてきた¹⁻⁵⁾。

しかし、これらの出版物について客観的な線引きを行うことは、発行される出版物の編集ポリシーや刊行形態の多様性から非常に困難なことであり、またたとえなんらかの権威的機関が判断を下せたとしても、その取扱いについては、受入館の実情によって左右される性質のものであることも確かである。

いまOPAC時代を迎えるにあたって、地曳⁶⁾がいうように、「電算処理への切換え時期が、資料区分を見直す良い機会」であり、入力作業にあた

る図書館(員)として、ある見解を保持し、それに即応した実務的処理を図っていくことが必要である。

本稿では、これら境界領域の不明な出版物を薄暮文献(Twilight Literature)と仮名し、その特性について考察を行うとともに、OPAC上での画面処理を通してユーザーへの対応を試みた。

II. 薄暮文献

図1は、1992年のBrain Research に載っていた2人の異なった著者による参考文献の記載例である。1人はAnnals of the New York Academy of Sciencesを雑誌とみなし、もう1人は単行書とみなして、それぞれ異なった記載法をしている。

このような例は探せば沢山あることで、文献の専門家と自認する図書館員の作る総合目録にしても、同じ文献が雑誌目録に載っていたり、単行書目録に載っていたりすることは、いわば暗黙の了承事項になっている。

通常これらの文献を、単行書と雑誌との中間的資料とか、単行本的シリアルとか、アニュアルも

* Masahiro IIJIMA : 〒321-02 栃木県下都賀郡壬生町北小林880.

(1993年9月21日 受理)

と名づけることにした。Gray Literature（灰色文献）と紛らわしいが、内容的には全く性格を異にするものである。

しかし、呼名はともかく、このような曖昧な位置づけにあるだけに、その取扱いに関しては多くの問題が存在する。特に、総合目録を作成する上で、なんらかの基準あるいはガイドラインの必要性を誰もが認めてはいるものの、いまだに実現できないのは、それだけ問題の根が深いということかもしれない。

Ⅲ. 判別基準

雑誌と単行書という二つの範疇しか持たない図書館の資料区分においては、薄暮文献の取扱いは図書館によって実にまちまちである。

図3は、図書館で行われている実際的な判別方法から、単行書に扱う理由、雑誌に扱う理由をそれぞれ7項目の観点から対比させたものである。

これら相対する特性のそれぞれを兼有しているところに、薄暮文献の厄介さがある。

この7項目を整理すると、①～②は書誌構成上の出版的要素、③～⑤は権威的機関による権威的

要素、⑥～⑦は図書館事情による図書館の要素と大別することができる。

このうち、⑥～⑦は受入れ館の事情に左右されるもので、現場において大きな決定権を持つものの、判別基準の一般的なものとはいえないものである。

また③～⑤も判別上の参考にはなるが、客観的要素となると問題のあるところで、特に④の各種の総合目録における収録上の資料区分については、すべてデータ提出館の判断にゆだねられている現状では、とても客観的な判別基準とはなり得ない。

また③のISSNとISBNにしても、薄暮文献においては全体のシリーズ名にはISSNが、個別の一冊ずつのタイトルにはISBNがと二つの番号が併記されている場合も少なくはない。

さらに、⑤の主要な二次資料や National Library of Medicine（以下、NLM）の Current Catalog に収録されているか否か、によって判断を下すこともある。しかし、これにしても決定的なものとはいえない。なぜなら主要な抄録、索引誌においては、対象となる収載誌はかなり選別され網羅的ではないからだ。

また、医学文献を扱う権威的な機関である

〔単行書〕	〔雑誌〕
①個別のタイトルがついている。 ②不定期刊行である。 ③ISBNがついている。 ④単行書の総合目録に収載されている。 ⑤Current Catalog 等に収載されている。 ⑥単発で受入れている。 ⑦予算上、単行書の費目で購入している。	①統一したシリーズ名がある。 ②定期・不定期に拘らず終刊がない。 ③ISSNがついている。 ④雑誌の総合目録に収載されている。 ⑤索引・抄録誌に収載されている。 ⑥継続して受入れている。 ⑦予算上、雑誌の費目で購入している。
①～②：出版的要素	
③～⑤：権威的要素	
⑥～⑦：図書館的要素	

図3. 薄暮文献の資料区分上における判別基準

NLMにしても、Index Medicus と Current Catalog の双方に同じ継続出版物を収録している例も多い。

次に書誌的な面から①と②をみると、①の個別のタイトルと統一したシリーズ名の双方を持つことは、この薄暮文献の最大の特徴といえる。しかも独立したタイトルの下にさらに複数の著者による複数の論文タイトルで構成される、いわばタイトルの三重構造によって成り立っている。このスタイルは単行書のシリーズものにもよくみられるが、雑誌の特集号に顕著に出現するものである。

②の刊行期間については、annual reviews や yearbooks のように年1回刊行されるものを除けば、総じて不定期刊行のものが多くといえる。しかもいつ終わるという終刊の予告のないことも特徴であり、この点では逐次刊行物の最大の特徴を兼ね備えている。

このほか、外見の装丁にハードカバーが用いられていることが多く、この点が単行書と紛らわしい要素でもある。速報性重視の上から頻繁に発行され、内容量も少ない定期刊行物と異なり、年1回から数回、なかにはいつ発行されるかわからない不定期刊行物では、内容量も多く、保存上や見栄えの上から初巻からハードカバーで組む、という出版的（商業的）配慮があるからだろうか。あるいは monographic series として、雑誌とは異なる出版形態のジャンルが確立されている背景があるためとも思われる。

一方、内容的な面では同じ主題分野に關しての新しい研究動向、あるいは研究成果を継続的に多数の執筆者からなる複数論文で構成されていることから、レビューや学会抄録が多いことも薄暮文献の特色である。

このようにみえてくると、薄暮文献は外見的には単行書の体裁を保っているが、書誌的・内容的には雑誌の特性をより多く持っているように思われる。

ここで考えたいのは、判別基準をどこに置くかはその図書館のポリシーにかかわる問題であるが、個々の文献単位で、これは単行書、あれは雑誌という選別方法を採用のではなく、薄暮文献をマスとしてとらえ、原則的にどちらか一方の範疇に統括してしまうという考え方が、ユーザーにも図書館員にも平明なのではないだろうか。

例えば、薄暮文献は逐次刊行物であるという観点から、少数の例外を除いてその全てを雑誌扱いとするというのも一つの行き方であり、筆者個人としてはむしろこの道を選びたい。例外のなかには、年鑑・人名録・住所録・統計・データブック等の一般に参考図書として使われ、参考図書室や参考コーナーに配架されているものや、特定の主題というより、大きなジャンルの下で集録されるパブリシャーズ・シリーズ等を含めて、単行書として扱うことが实际的である。

IV. 総合目録上での収載館の変遷

各種の総合目録上での逐次刊行物の収録範囲は、国立国会図書館⁹⁾や学術情報センター⁹⁾では拡大の方向にある。

これが収載館にどのように反映されているかを、日本医学図書館協会の発行する雑誌と単行書のそれぞれ次の2種類の総合目録を使って、その10年間の変遷の様子を検証してみた。

- ① 現行医学雑誌所在目録／1980年版、1990年版
- ② 医学洋書総合目録／1980-85, 1986, 1987, 1988, 1989-90, 1991

この2種類の総合目録では、同じ館の同じデータが重複して提出されないようあらかじめ制約が設けられている。

調査対象にしたタイトルは、神経科学分野から獨協医科大学図書館の所蔵する10タイトルの薄暮文献に限定した。

10年の経年調査では、1980年版の現行医学雑誌

タイトル名	出版社	創刊年	現行'80 現行'90 学総目'79 学総目'88			
			(補遺版'82)			
1. Adv Neurochem	(Plenum)	'75	1	7	4	14館
2. Adv Neurol	(Raven)	'73	25	35	30	63
3. Contemp Neurol Ser(Davis)		'66	4	5	5	15
4. Dev Neurol	(Elsevier)	'78	2	5('88)	2	8
5. Dev Neurosci	(Elsevier)	'77	1	9	3	15
6. Major Prob Neurol	(Saunders)	'73	2	4	4	12
7. Monogr Neural Sci	(Karger)	'73	2	4	7	16
8. Prog Brain Res	(Elsevier)	'63	65	67	78	105
9. Prog Neurol Surg	(Karger)	'66	32	36	47	67
10. Prog Neuropathol	(Raven)	'71	14	21	34	51

図4. 雑誌総合目録における所蔵館数推移

と1990年版のそれとでは10タイトルとも全て所蔵館の増加を示し、関連的に調べた学術雑誌総合目録欧文編の1979年版（文部省学術国際局編）と1988年版欧文編（学術情報センター編）とを比べても同じような結果となった（図4）。

この増加のなかには、単に所蔵の種類数を増したのではなく、今まで単行書として登録していた館で雑誌に鞍替えした館があるのではないかと考え、10タイトル中最も増加数の多いAdvances in Neurologyの10年間に出版された個々のタイトル33点を、その発行年に対応する医学洋書総合目録にあたった。33の個々のタイトルとそれぞれの収録館を抜き出し、同時に、現行医学雑誌の80年版と比較して90年版で増えた10館とを照合しながらその動向を調査した。

その結果、それまで単行書に登録していた5館が90年版では雑誌登録に変更していることがわかった。

この調査は残りの9タイトルでも行ったが、その結果は、Contemp Neuro Serで2館、Dev Neurosciが4館、Major Pro Neurol、Monogr

Neural Sci、Prog Brain Resでそれぞれ1館が90年版では雑誌登録に変わっていた。

しかし、この少数例をもって各図書館が国立国会図書館や学術情報センターの逐次刊行物収録範囲の拡大に影響を受けたとするのは早計であろう。最初は単行書として受入れたが、何冊かまとまったところで雑誌に移行したという、単に図書館的措置とも考えられる。現時点では、まだまだ薄暮文献が各種の総合目録に単行書としての位置を占める割合は高いのである。今後どのような変遷をたどるのかはわからないが、このような調査を続け、各館の取扱い上の動向を知るのも興味あるところである。

V. OPAC時代の対応について

現在、図書館界は急速なOPAC時代を迎えようとしている。

OPACの機能は、ユーザーが直接書棚までいって本を探すのではなく、必要とする文献をコンピュータの端末機から探すもので、大学や研究所では

LANが構築されることによって、最終的に研究室や診察室からでも文献を探せることをめざすものである。

今まで薄暮文献を単行書扱いにする最も大きな利点は、ユーザーが書棚をあちこち探すブラウジング効果によって思わぬ文献に出会えるという点にあったが、OPACが普及すると共に、このような役割は希釈されていくものと考えられる。

もともとユーザーにとっては、薄暮文献が単行書に区分されようが、雑誌に区分されようがどちらでもいいことである。OPAC上で著者や書名、件名（キーワード）などから自由にアプローチできることが肝要で、そのためには、薄暮文献が別々のファイルに入力されている場合でも、そのデータが統合されたシステムで検索できることが望ましい。

一方、図書館側の整理上の手間は単行書扱いにするより、雑誌扱いのほうがはるかに簡便であることは自明であり、雑誌配架にみるタイトルのアルファベット配列はユーザーにとっても掌握しやすいものである。

ただし、雑誌扱いにした場合、ユーザーが分類や件名からのアプローチができないという難点もある。この辺が意見の分かれるところであるが、ユーザーにとって一般的に図書館の分類表や件名標目表は馴染みにくいものであり、むしろフリー・タームでの検索のほうが実用的であるとする向きもある¹⁰⁾。

獨協医科大学図書館（以下、当館）では、ブレンテック社の「情報館」を1992年9月より導入したが、ここでは単行書データと雑誌データが別々のファイルにより管理されている（図5）。

検索に関しては、全資料一括検索で自動的に二つのファイルから探す方法と、別々にファイルを呼び出して、前方一致か部分一致かのどちらかで検索する方法がある。部分一致はフリー・タームで打ち込み、ファイル内の書名などと部分的に合

図5.『情報館』における検索システム

致すれば検索されるものである。当館では現在全ての資料に件名付与を行っていないため、薄暮文献のようなどちらともつかないものは、全資料一括検索で行えばいいが、「情報館」ではこの場合前方一致検索でしか行えないという制限がある。

したがって、タイトル名・著者名などが明確にわかっている場合は有効だが、そうでない場合、別々のファイルを呼び出す必要がある。

当館では薄暮文献を雑誌扱いしている割合が高いため、ユーザーが単行書からアプローチしてきた場合も想定して、単行書ファイルにも書名、編著者などを入力し、フリータームでの検索を可能にし、また現物は雑誌の書架のシリーズのもとに並んでいることを表示してある（図6）。

これは従来のカード目録の参照カードに相当するもので、OPACにおける参照画面とでも呼ぶべきものであろう。

《図書検索》 全資料一括検索 (詳細表示) 1/4

入力番号 814

資料区分 1 図書 登録番号 001000313 整理番号 和洋区分 2 洋書

書名
Subarachnoid Haemorrhage は、
雑誌書架 Major Problems in Neurology 25, 1992 を見よ

著者名
1 Veemenen, M.
2 Lindsay, K. W.
3 Van Gijn, J.

著者名 フォントメイ

戻る 前画面 次画面

図6. 『情報館』における薄暮文献の参照画面

VI. おわりに

OPAC時代を迎えて、データ入力の際の資料区分については、資料全体を平明で把握しやすい方式に変えていく必要がある。本論では薄暮文献について、逐次刊行物であるという観点から、原則的にその全てをマス（集合）としてとらえ、雑誌扱いにすることが好ましいという方向で検討してきた。

もちろん、この点に関してはそれぞれの図書館の事情や累積されたデータの重み、学術情報センターとの絡みなど、一概に論じられる問題でないことも十分承知している。しかし、図書館（員）として無定見のまま日常業務を積み重ねるより、なんらかの意味を見い出しながら取組むことも必要であるように思える。

いずれにしても、OPAC時代に向けて、薄暮文献の取扱いに関する再検討の光が投げかけられ、もっと論議されてよい問題である。

参考文献

- 1) 野口迪子. 医学図書館における逐次刊行物と継続出版物：選択－特に継続出版物について. 医学図書館 1969 ; 16(1) : 9-13.
- 2) 青木孝雄. 雑誌取扱い上の若干の問題について. 医学図書館 1969 ; 16(3) : 215-23.
- 3) 大井 晴. 現行医学雑誌所在目録：編集上の問題点 (2). 医学図書館 1969 ; 16(4) : 354-9.
- 4) 田中美美子. 整理面における相互協力－医学洋書相互目録へのカード提供作業と編成上の問題点. 医学図書館 1973 ; 20(4) : 331-47.
- 5) 板橋瑞夫. 医学雑誌総合目録第7版編集を前に－医学雑誌総合目録、現行医学雑誌所在目録、医学洋書総合目録の関連について. 医学図書館 1982 ; 29(2) : 166-70.
- 6) 地曳孝之. 逐次刊行物の資料区分について－その資料的特性を中心に－. 逐次刊行物研究分科会報告 第47号 1988 ; 44-57.
- 7) Osborn AD. Serial Publication : their place and treatment in libraries. 2. ed. Chicago : American Library Association, 1973.
- 8) 石山 洋. 逐次刊行物に扱う範囲の拡大について－国立国会図書館における資料整理システムの革新. 国立国会図書館月報 299 1982 ; 2-10.
- 9) 酒井清彦. 学術雑誌総合目録と文編の編集について. 逐次刊行物研究分科会報告 第50号 1992 ; 1-4.
- 10) 津山健友. 公共図書館におけるOPACシステム－神奈川県立図書館にみるその実際と展望. 情報の科学と技術 1991 ; 41(6) : 474-82.